

地方創生関連交付金の効果検証【外部評価】

令和3年11月実施

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

No	交付対象事業の名称	事業概要		交付金実績額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			事業終了後における実績値	達成率	事業効果(自己評価)	外部有識者の評価		
				単位:円	指標	指標値	単位	実績値			事業の評価	外部有識者からの意見	
1	「都心に近い山岳スポーツの聖地」を目指すまちづくり	【全体概要(目的)】 秦野市が、古くから山岳スポーツを楽しむことができる都市(まち)として賑わってきたことや東京2020大会でのスポーツクライミング競技の採用及び、スマートIC設置というまたとないチャンスを捉え、秦野市と神奈川県が連携し、「都心に近い山岳スポーツの聖地」を目指すまちづくりを進めるため、子どもから高齢者までの幅広い世代、トップアスリート、障がい者など、それぞれのニーズに応じて利用できる3つのスポーツクライミング施設を整備する。	【R1年度実績】 ■施設整備(秦野市) ・ボルダリング施設の整備(神奈川県) ・スピードウォールの整備及び既存リードウォールの改修	96,991,561	クライミング施設年間利用収入※増加分	0	千円	-	-	-	-	-	
				96,991,561	県外からのスポーツツーリズムプログラム参加者数※増加分	0	人	-	-				
				96,991,561	県立秦野戸川公園の年間観光入込客数※増加分	0	人	-	-				
		-	【R2年度実績】 ・令和2年6月に施設供用開始 ・ボルダリング教室、小中学生を対象とした競技会、国体県予選等の各種協議会を開催 ・東京2020大会アメリカ代表選手の事前練習を実施	-	96,991,561	クライミング施設年間利用収入※増加分	9,500	千円	4,005	42%	③効果があった  (評価理由) 都心等からの来訪者の増加や、クライミングの普及促進、クライミング関係団体等との連携体制の構築に一定の効果があった。	①有効であった	新型コロナウイルスの影響がありつつも、順調に進んでいます。ボルダリング施設は、新東名開通の開通を生かしたまちづくりにおける戦略的施設であり、「山岳スポーツの聖地」として秦野の特色ある地域性につながる事が期待できるものです。今後は、観光、地域経済への波及効果が生み出されるよう、県や他の地域資源との連携が充実されることを期待します。
					96,991,561	県外からのスポーツツーリズムプログラム参加者数※増加分	200	人	18	9%			
					96,991,561	県立秦野戸川公園の年間観光入込客数※増加分	30,000	人	-245,000	-817%			